

■ 令和元年度 第2回 いきいき西区ささえあいプラン推進委員会

日 時：令和2年2月18日（金）午前10時～

会 場：内野まちづくりセンター

（司 会）

これより令和元年度第2回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会を開会いたします。
本日の司会を務めさせていただきます、西区健康福祉課課長補佐の相馬でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日の会議でございますが、山田校区ふれあい協議会の松井委員、黒崎南ふれあい協議会の佐々木委員から欠席の連絡がありましたので、ご報告させていただきます。また、坂井輪小・小新中学校区まちづくり協議会の酒井委員の代理で細野様から本日、出席していただいておりますことをご紹介します。

はじめに、事務局を務めます健康福祉課長の渡部よりごあいさつを申し上げます。

（渡部健康福祉課長）

おはようございます。健康福祉課長の渡部でございます。本日はご多忙の中、第2回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会にご出席いただき、ありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願いたします。

日ごろ、皆様方には福祉の推進をはじめ、様々な地域活動にご尽力を頂きまして、大変ありがとうございます。この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

さて、この推進委員会は、地域の皆様と西区役所、西区社会福祉協議会とで西区の地域福祉計画の点検や評価を行いながら、だれもが自分らしくいきいきと暮らせる地域を作っていくということを目的としております。2015年から始まりました、第2次いきいき西区ささえあいプランも策定から間もなく5年が経過しようとしております。

地域を取り巻く状況も、策定当時とはだいぶ変わってきていることと思います。人口減少や超高齢社会の中で、皆様のご尽力のおかげで新たな取組みが始まった地域もございますし、一方では、自然災害や痛ましい事件などが起こりまして、だれもが安心して暮らせるまちづくりのためには地域での助け合いが一番重要になってきております。

また、第2次いきいき西区ささえあいプランは2020年度末までの計画で、5年が経過いたしますので残りはまだ1年と締めくくりの時期になってきたところでございます。区役所や社会福祉協議会は全体計画に基づき、各事業を進めているところでございます。委員の皆様には、各コミュニティ協議会ごとの計画を踏まえ、地域福祉活動を進めていただい

ていることと思いますが、2020年以降の新たな計画の策定に向けまして、これまでやってきたことをしっかりと振り返りをしていただきつつ、皆様とともに今後のことも考えていければと思っております。

そのような中で、昨年12月ですが、この推進委員会の分科会を開催させていただきました。西区内の他の地区の取組みを調査、研究する場としてとても有意義な時間になったと思っております。

本日、委員の皆様からは、地域福祉活動がますます活発になりますよう豊富なご経験や地域での取組みなどから存分に意見交換をしていただきますよう、お願いを申し上げまして、簡単ではございますがごあいさつとさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

(司 会)

なお、後日会議録を公開するため会議を録音させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議事に入ります前に、本日の会議資料の確認をお願いいたします。なお、ご案内のときに資料をお送りさせていただきましたけれども、本日お持ちいただくようお願いしておりましたが、資料の修正や追加資料等が多かったため、改めて一式を皆様のお手元にお配りさせていただいております。先にお送りさせていただいた資料と重複しているものもありますが、資料については、本日お配りさせていただいているものをご覧いただきたいと思っております。

それでは、資料の確認をさせていただきます。まず、はじめに本日の次第、続いて、「いきいき西区ささえあいプラン推進委員会名簿」、「いきいき西区ささえあいプラン推進委員会事務局名簿」、資料1「第2次いきいき西区ささえあいプランの評価について」、「いきいき西区ささえあいプラン事業評価一覧」、資料2「第2次いきいき西区ささえあいプラン取り組み事業評価シート」、次に参考『第2次いきいき西区ささえあいプラン』西区全体計画進行管理票、「第2次いきいき西区ささえあいプラン」コミ協別計画2015～2019年度の5年間ふりかえりシート。このコミ協別計画ふりかえりシートにつきましては、各コミュニティ協議会の方にはご自分のコミュニティ協議会の計画を配付させていただいております。それ以外の方については、内野・五十嵐まちづくり協議会のものを資料として入れさせていただいております。次に、資料3「第3次いきいき西区ささえあいプラン策定スケジュール(案)」、最後に資料4「新潟市計画」と書かれた地域福祉計画の基本理念及び基本目標について。以上の資料が一式となります。不足等ございませんでしょうか。

それでは、議事に入りますが、これより推進委員会開催要綱第4条第2項により、五十嵐委員長に議事進行をお願いいたします。五十嵐委員長、よろしく願いしたいと思います。

(五十嵐委員長)

皆様、おはようございます。今年は雪がなくて、だいぶ楽だな思っていたら、新型コロナウイルス関係で様々な行動が制限されて、思わぬところに影響が出ている方も、この中にもいらっしゃるのではないかと思います。そのときこそ、委員会のタイトルにもありますように、ささえあうしくみづくりや関係性づくりがとても大事だということを感じております。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、議題（１）平成 27～令和元年度の事業の検証について、議題を進めます。まずは、事務局からご説明をよろしく願いいたします。

(事務局：小林係長)

皆様、おはようございます。西区健康福祉課地域福祉係長をしております、小林でございます。いつもお世話になっております。

それでは、議題（１）につきまして、ご説明させていただきます。こちらは、来年度第3次いきいき西区ささえあいプランを策定するにあたり、まずは現計画の評価を行うことで、今後の課題等を明らかにし、計画策定に活かしていくことを目的に行ったものでございます。

それでは、資料1「第2次いきいき西区ささえあいプランの評価について」をご覧ください。各事業の評価に入る前に評価のしかたについてご説明申し上げます。まず、1計画の概要につきましては、皆様もご存じの内容だと思いますので、割愛させていただきます。

続きまして、2評価の方法でございます。今回の評価は平成 26 年度から令和元年度に行われた事業について、基本目標ごとに分類し、それぞれ評価をAからDの4段階で行いました。評価の指標については、記載のとおりであります。また、各事業には目標値が設定されているものといないものがあります。これは、前回の計画策定時に委員の皆様から計画に目標値を入れるべきというご意見があり、しかしながら数値として目標値を上げられない事業もあるため、そうした議論の中で目標値を出せるものは入れ込むという方向になったことによるものです。目標値の数字がある事業については、令和元年度の実績見込みをもとにその目標値に対しての達成率を出し、目標値がない事業については、令和元年度の実績見込み及び過去実績、事業に参加された方などの満足度や事業の課題等を考慮し評価いたしました。さらにそれぞれAからDの評価に至った理由と今後の課題を明記することで、次期計画へつなげたいと考えております。

最後に、各所属が行いました事業の自己評価を基に、推進委員の皆様から各基本目標の総合評価として忌憚のないご意見を頂き、その資料を次期計画策定のための資料としたいと考えております。本日、頂いた総合評価については、「いきいき西区ささえあいプラン事業評価一覧」にまとめ、次回の委員会でご確認いただきます。

次に、3前倒しでの評価についてですが、ご承知のとおり、現計画は令和2年度まででございます。今回は、あくまで次期計画のための暫定的な評価として令和元年度までの評価を行いますので、最終的な評価は現計画終了後、改めて行うことといたします。事業の評価については、資料2で令和元年度の実績見込みを入れてありますほか、平成30年度までの実績については参考資料の『第2次いきいき西区ささえあいプラン』西区全体計画進行管理票」をご覧ください。

それでは、いきいき西区ささえあいプラン事業評価一覧をご覧ください。まず、事業の全体的な評価としては、自己評価がAとなった事業が41事業、Bとなった事業が16事業、C以下がなしということで、すべての事業において一定程度の成果を上げられたのではないかと考えております。ただし、基本目標2「安心・安全に暮らせる地域づくり」については10事業中4事業がBで、Bの割合が高くなってしまいましたので、今後の事業に活かしてまいります。

次に、評価シートにあります個々の事業の評価についてご説明をさせていただきます。資料2「第2次いきいき西区ささえあいプラン取り組み事業評価シート」をご覧ください。評価シートの左から四つ目の項目に担当部署という項目がございますが、はじめに担当部署が西区健康福祉課などの西区役所の所管のものについては私からご説明をさせていただき、西区社会福祉協議会となっている事業は私の後に社会福祉協議会からご説明をいたします。私からは時間の都合上、A以外の評価となった事業をご説明させていただきますので、ご了承ください。

まず、基本目標1、私たちが支えあい、助けあう地域づくりの事業についてです。なお、資料は基本目標ごとに四つに分かれております。表の左上に基本目標を記載してありますので、ご確認ください。

はじめに、1、地域包括ケアシステムの構築をご覧ください。この事業は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けて多様な主体による生活支援・介護予防サービスの創出を推進する事業です。令和元年度の実績見込みは、類型で住民主体の訪問型生活支援サービスが2か所、週1回開催の地域の茶の間が19か所、新規開設の地域の茶の間が29か所です。自己評価はBで、評価理由として、住民主体で支え合いのしくみづくりをしていく必要性は認識されてきておりますが、今後もさらに生活支援や見守り活動を充実させていく必要性があるためとさせていただきます。今後の課題として、実際に活動する担い手の発掘、支え合い活動に参加する裾野を広げることとさせていただきます。

続きまして、9、子ども学習支援事業をご覧ください。この事業は、生活困窮の状況にあ

る世代の中学生等を対象に週2回の学習会を開催します。新潟大学と新潟青陵大学の学生スタッフとも勉強を進め学習意欲を高め、高校進学を促進する事業です。令和元年度の実績見込みは学習会参加登録人数50名、開催回数93回です。自己評価はBで、評価理由として生活困窮者世代の学習会への参加人数が増加し学習習慣の定着及び学力向上につなげることができたが、100パーセントの達成ではないため評価をBといたしました。今後の課題として、参加人数は増加しているが社会参加を拒む世代の掘り起こし及び働きかけが難しいといたしました。

次のページに移りまして、基本目標2、安心・安全に暮らせる地域づくりの事業です。3、避難行動要支援者対策をご覧ください。この事業は、高齢者や障がい者、要介護者など災害時に自力で避難することが困難な方を対象として、避難行動要支援者名簿を作成し、地域の自主防災組織や援護体制の整った自治会、町内会等援護する方に配布し、災害時に地域で支援する体制を確立することを目的とした事業です。

この事業は、目標値が自主防災組織結成率90パーセントで、それに対して令和元年度の実績見込みは結成率89.1パーセントでした。自己評価はBで、評価理由として、二つの自主防災組織が新たに結成され、100パーセントではないものの目標値に近づいたことからといたしました。今後の課題として、自主防災組織の結成を検討しているコミュニティ協議会があり、そこが結成すると結成率がかなり上昇する見込みであるため、結成を促していきたいとさせていただきました。

続いて、基本目標3、健やかでいきいきと暮らせる地域づくりです。2、ウォーキング講習会をご覧ください。この事業は、ウォーキングの基本的な学習と実技、継続のための工夫について学ぶ講習会です。この事業は、目標値が参加者延べ200人で、令和元年度の実績見込みは8回実施で、参加者は延べ167人でした。自己評価はBで評価理由として平均して200人前後の参加があり、アンケート結果からは満足度の高い講座であったためといたしました。今後の課題として、参加者が固定化されてきたため区だよりだけではなく、周知方法について検討するといたしました。

続きまして、8、高齢者転倒予防教室をご覧ください。この事業は、民間委託の教室で転びやすくなったことを自覚する65歳以上を対象とした教室です。令和元年度の実績見込みは、3回実施で参加者延べ53人です。自己評価はBで、評価理由として平成28年以降はロコモ予防講座として実施をしていますが、参加者の満足度は高い講座であるためとしました。今後の課題として、参加者が固定化されてきたため、区だよりだけではなく周知方法について検討するといたしました。

次のページに移りまして、基本目標4、みんなで暮らしを支える情報の共有とネットワー

クづくりについてです。6、世代間交流促進、高齢者見守り啓発事業をご覧ください。この事業は、児童に高齢者に関する認識を高めてもらうため、小・中学校において高齢者疑似体験、認知症サポーター養成講座を開催する事業です。この事業は、目標値が西区の全小学校で認知症サポーター養成講座を開催することです。令和元年度の実績見込みは、小学校 14校、中学校 4校の計 18校です。自己評価はBで、評価理由として、開催校も 18校で前年度から増加したものの小学校の未開催が 2校あり、目標値が全小学校での開催であることから Bとなりました。

以上で、西区役所分の説明は終わらせていただきます。

(社会福祉協議会)

続きまして、社会福祉協議会から事業の評価説明をさせていただきます。

まず、お話をさせていただく前に資料の訂正がございますので、訂正箇所を申し上げます。よろしくお願いたします。資料 2 の評価シートでございます。基本目標 2、安心・安全に暮らせる地域づくりの 5、夕食宅配サービス事業の評価欄は斜線になっているかと思いますが、この部分につきまして A。基本目標 4、みんなで暮らしを支える情報共有とネットワークづくりの 9、新潟市高齢者あんしん相談センター西の斜線部分を A に訂正をお願いいたします。これにつきましては、昨年度以前に事業を終了していたため、今年度の評価から外したのですが、計画期間内の事業という観点から、それぞれの事業で目的を達したため、A 評価とさせていただきます。よろしくお願いたします。

それでは、社会福祉協議会からは A 及び B、C、D の評価にかかわらず説明をさせていただきます。まず、基本目標 1、私たちが支えあい、助けあう地域づくりの 12、友愛訪問事業でございます。この事業は、見守りが必要な高齢者等の孤独感の解消や安否確認を兼ねて訪問するもので、今年度は新規に 2 団体が取組みを始めました。いずれも、自治会からの申請で地域に見守る必要性が認識されてきたものと考えられ、評価 A といたしました。しかしながら、長く実施されている団体につきましては、事業の趣旨や目的が形骸化し、訪問時の手段として持参している乳酸飲料が見守りではなく配達だけが目的となっているということが見受けられるケースがあり、今後さらに地域の理解を求めてまいります。

次に、21、地域交流貢献事業（出前講座）です。自治会やコミュニティ協議会、地域の茶の間からの依頼で様々な福祉についての講座に職員が出向き実施するものです。今年度は、出前講座のメニュー表を作成し、自治会に配布いたしております。しかしながら、より若い世代でも講座を広めていく必要があるということから B としております。

次に、22、福祉教育の推進でございます。依頼団体が増加傾向にあるため、評価を A としておりますが、学校現場での総合的な学習の時間における多様な学びの 1 コマ、主に高齢者

等の疑似体験でございます。そのみの依頼が多いこと、また福祉教育は生涯教育であるということを意識して、今後は、先ほどB評価をしております出前講座とあわせた形で実施していきたいと考えております。

続きまして、基本目標2、安心・安全に暮らせる地域づくりの6、緊急情報キット配布事業です。この事業は原則70歳以上で、健康上不安のある高齢者または障がい者、見守りが必要と思われる方を対象に、緊急時に備え、病気や服薬の情報、緊急連絡先などを記載できる情報用紙を入れた筒を自治会経由で配布をしているものです。緊急時の備えの認識が深まり、自治会単位で取り組む意義が深まってきており、評価はAといたしました。

一方、配布だけが目的となり、情報の更新がなされていないということも想定されるため、配布者への安否確認を兼ねた更新についての訪問と、救急要請時に活用されることが想定される消防とも情報交換が今後の課題と考えております。

次に、7、災害に対するボランティア研修です。区民向けに災害時のボランティアセンターについての研修や、災害ボランティアセンター立ち上げ訓練を例年実施しておりますが、今年度は直前に発生をした台風19号の被災地支援のため、講師及び区社会福祉協議会職員の従事が難しく中止としたため、評価をBといたしました。

次に、8、災害ボランティアセンター連絡会議では、災害ボランティアセンターの設置訓練の企画や災害ボランティアマニュアルの見直しを図り、災害発生時に関係機関の連携がスムーズに図れるよう、ネットワーク会議をこの3月に実施をいたしますが、本日段階で未実施のためBとしております。

続きまして、基本目標3、健やかでいきいきと暮らせる地域づくりの11、イオン社協のひろば。この事業につきましてはイオン新潟青山店の2階、コミュニティ広場を会場に8月を除き月1回、様々なテーマで講座を開催し、参加される皆様方の社会参加の促進にあわせ社会福祉協議会の周知活動を行っております。イオン社協のひろばにつきましては、参加者が減少傾向、また固定化しているため、周知の方法の改善と幅広い年齢層に参加してもらえ工夫が今後の課題となっており、Bとしております。

続きまして、基本目標4、みんなで暮らしを支える情報の共有とネットワークづくりの10、コミュニティソーシャルワーク事業です。制度の狭間や、多問題を抱える世帯等に対し、専門職との連携を深め、地域の協力を頂きながら課題解決に向けた支援を行うため、他職種とのネットワークが重要となっております。社会福祉協議会職員だけがつながるのではなく、地域と専門職、またいろいろな職種の人たちとの情報共有と顔の見える関係づくりを目的とした「にしCo. Mi. NET」を継続開催しておりますが、大変好評を頂いており、評価をAとさせていただきます。

最後に、13、ボランティア講座です。ボランティア活動を行うためのきっかけづくりとして、入門講座と様々な講座を開催し、参加者から高評価を頂きましたので、Aとしております。特に、今年度は支え合いのしくみづくりを意識して、退職後の男性の社会参加や地域活動のきっかけになるよう、地域の担い手育成講座を開催いたしました。今後もターゲットの絞り方や日程設定など、新たなアプローチ方法を検討してまいります。社会福祉協議会からは以上となります。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。それでは、事務局から、ただいまご説明いただきました取組み事業評価シートについて、委員の皆様からご意見やご質問等を頂きたいと思っております。また、ここで出たご意見を推進委員会としての自己評価とさせていただきたいので、発言される方は挙手のうえ、発言前にお名前と質問、ご意見に関する基本目標と事業名もおっしゃっていただきますようお願いいたします。いかがでしょうか。村井委員、お願いいたします。

(村井委員)

青山小学校区コミュニティ協議会の村井と申します。質問一つだけですけれども、高齢者の見守りに関連しまして、評価の中には入っていないのですけれども、西区にお尋ねしたいことは、いわゆる孤立死という言葉がありますけれども、定義を新潟市がどうとらえているのか分かりませんが、西区で孤立死ということは、例えば今年度や昨年度には、数的にはどのくらいあるのかということを知りたいです。

(五十嵐委員長)

今のご質問は、今、説明いただいた資料の中にはないことで、気になっていらっしゃるということですか。

(村井委員)

その延長線上にあると思います。

(五十嵐委員長)

ありがとうございます。何かご発言いただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。社会福祉協議会、どうですか。

(社会福祉協議会)

全体的な孤立死の人数等は、社会福祉協議会では把握はしておりませんが、民生委員・児童委員の協議会で孤立死を発見、認知した際の状況等の調査がされております。それについてもどのような経緯で、民生委員に情報が入ったのか、まただれが第1発見者になったのかということについて、民生委員の連合で調査をしております。ただ、民生委員がかかわったケース、情報が入ったケースだけでございますので、正式な数につきましては、まだ

把握はしておりません。申し訳ございません。

(五十嵐委員長)

村井委員、今このくらいでよろしいですか。

(村井委員)

要望としては、そういう条件付きでもいいのですけれども、民生委員がとられた判断でもいいのですけれども、年度ごとに把握した数字として、私としては地域がより安全に暮らしていく一つのバロメーターになりますので、データとしてとらえてもらいたいということです。

(五十嵐委員長)

貴重なご意見ありがとうございました。今後、反映させていただければと思います。それでは、ほかにいかがでしょうか。

(本間委員)

資料が読みづらいというか、分かりづらいです。私が浅学非才だから思うのかもしれないのですけれども、頭が悪いもので理解しづらいです。この資料2を見ると、これは普通に表になっているのですけれども、今度は裏返しとか、1/4、2/4、3/4分、確かにそれは分かりますけれども、逆にしたりで見づらいです。

(五十嵐委員長)

なかなか資料の見方というのはそれぞれありまして。

上にめくるといいようになっているようです。私も、字が小さくて若干見づらいと思います。

(本間委員)

全員皆さんが分かりやすいとは思いません。これは私だけかもしれませんが、もう少し分かりやすく、これをファイルしてもらえるとありがたいです。

(五十嵐委員長)

何かコメント、ございますか。

(事務局：小林係長)

ご意見、大変ありがとうございます。字が小さいというところはまた拡大するなどして、今後の資料組みに活かしていきたいと思います。両面につきましては、めくっていただくに見えるような形になるのですけれども、またホチキスのですとかそこも工夫させていただきますし、ページ番号につきましても見やすいように今後、改善してまいりたいと思いますので、大変ありがとうございました。

(五十嵐委員長)

たくさんの方があって、それをまた紙の節約ですとかいろいろな事情がある中で、皆様にもご協力いただくことになるかと思いますが、よろしく願いいたします。ほかにいかがでしょうか。

(酒井委員 代理：細野委員)

先ほどご紹介ありました坂井輪小・中学校区まちづくり協議会の細野と申します。今日は、酒井さんの代理を出席させていただいています。

意見というより要望です。いろいろ、取組み事業、多岐にわたって掲げて、積極的な活動をしていただいているということはよく分かるのですけれども、この中の目標値とR1の実績とあるのですけれども、ここにもし継続的な事業としてやっているのであれば、昨年度の実績を書いていただくと今年の目標値の妥当性とか、昨年よりどのくらいよくなったのか悪くなっているのかがよく分かるのではないかと思いますので、一言。よろしく願いいたします。

(事務局：小林係長)

ご意見、ありがとうございます。令和元年度より前の実績につきましては、恐れ入りますが、参考資料として別の綴りの資料となってしまう大変恐縮ですけれども、そちらで実績を配付させていただいております。二重にして見る形になりますけれども、一枚で作成いたしますとかなり大きな資料となってしまうため、このような形とさせていただいております。見づらいかもかもしれませんが、こちらでご確認いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

(五十嵐委員長)

多くの情報で大変ですよ。それでは、ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、先に進めさせていただきたいと思います。このまま進めてもよろしいですか。

それでは、議題(2)平成27～令和元年度の地域別計画の検証の依頼について、事務局よりご説明をお願いいたします。

(社会福祉協議会：鍋谷事務局長補佐)

社会福祉協議会の鍋谷が説明させていただきます。

これまでの推進委員会でも説明がありましたとおり、来年度は第2次の計画期間6年の内の最終年度となります。例年、コミュニティ協議会ごとの地区別計画について、1年ごとに活動の振り返りをお願いしているところですが、この度は次期計画につなげるためにこの5年間の検証をしていただくようお願いいたします。

先日2月6日に、コミュニティ協議会の会長の会議がありまして、そちらでもお伝えしてあります。各コミュニティ協議会ごとに5年間ふりかえりシートというものが配られている

と思います。地域代表以外の委員の方には、内野・五十嵐まちづくり協議会のものが配付されておりますので、そちらをご覧ください。最初にコミュニティ協議会名が載っております、その次にキャッチフレーズといますか、内野・五十嵐まちづくり協議会の場合は「つながりと支え合いで、夢のある明るいまちづくり」という目標です。地域の目標、将来像がまずタイトルとして書いてあります。その後、基本目標の1、2、3、4とあるのですが、表面に基本目標1、2があって、裏側が3、4が入るように印刷してあります。すでに、入力してある文字は、すでに冊子になっています行動目標と具体的な取り組みが入っているものであります。

裏面の一番下のスケジュールをご覧ください。例年ですと、年度が終わって、4月になってから1年分の取組みや成果をまとめていただいておりますが、今回は次期計画作成につながるために5年分を振り返っていただくため、少し早めのスケジュールとなっております。各地域での検証方法は、計画の冊子の最後の項目として決められております。総会、役員会、アンケートなど地域ごとにそれぞれ違いますけれども、今回はコミュニティ協議会の総会の時期よりも少し前ですので、振り返りの方法については皆さんにお任せいたします。

5年間を振り返っていただき、右側の空欄になっていきます取組みと成果から右欄の課題と展望について記入していただきまして、4月末までに健康福祉課へご提示等お願いいたします。6月に来年度の第1回の推進委員会がありますので、事務局から5月中にまとめまして資料を送付する予定です。この用紙はパソコンのエクセルで作成しておりますので、パソコンで入力したいという方は事務局にご連絡をいただければデータでお渡しいたします。これまで、単年度、1年ごとの検証でしたが、それとは異なり5年間を振り返っていただくため、実施事業や活動を全部記入していると、多分この紙では書き切れなくなると思います。ですので、この中でも主な取組みですとか、この事項はぜひ第3次計画策定時のときにも、みんなで話合ってみたいというような議題や課題をぜひ入れてください。また、今後さらに展開していきたいことなども重点的に書いていただきたいと思いますと考えております。

第3次の計画は、振り返っていただいた評価を踏まえて、地域における地域課題、生活課題解決のための方策をさらに探り、地域福祉の推進に取り組むための実践的な計画となるよう、この後、説明がありますけれども、来年度は8月、9月ごろに地区ごとの懇談会を開催させていただきますので、ご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。今ほどの社会福祉協議会からのご説明について、委員の皆様からご質問やご意見等ございましたらお願いいたします。

なお、議事録作成の都合がありますので、マイクを必ずお持ちいただきまして、ご発言の

際は挙手のうえ、発言前にお名前をおっしゃってください。お願いいたします。

(木村委員)

五十嵐コミュニティ協議会の木村優子でございます。

今、社会福祉協議会から説明がございまして、4月末日までに出すようにというお話がありました。ほかのコミュニティ協議会とかほかの団体はどのような形で取りまとめているのか分かりませんが、私たちの五十嵐コミュニティ協議会では、4月末で各自治会長からの報告を頂き、それを取りまとめている状態なのです。ですから、コミュニティ協議会が一つずつ、全部これを取り扱っているのではなくて、各自治会に計画と活動を依頼し、こういうふうにやりましょうということで、実際、21ある自治会で実施させていただいているものなので、もともと基本が間違っていたのかと今、心配になってきました。

それと、今まで各自治会では、自治会長がその年、その年で変わる自治会もあるので、必ず、現自治会、当面の自治会長に報告を頂いて、それを取りまとめて、6月に区役所に提出をさせていただいたということが現状ですけれども、今これから各自治会長に配付するにしても、難しいかと思っているのですけれども、なぜもっと早く教えていただけなかったのかということと、五十嵐コミュニティ協議会だけがこのやり方をしているのか分からないのですが、ほかの協議会ではコミュニティ協議会が主として各自治会にこういう計画と活動をやってもらっているのか、それともどういうやり方をしているのか、まず、そこを一つ聞きたいということが一つ。

あと、1年あるので、もし間違ったやり方をしているのであれば、ここでしっかりと活動計画と活動実施のやり方を変えていかなくてはいけないと思って、教えてもらって助かっているところですが、その辺を教えてもらえますか。

(五十嵐委員長)

ありがとうございます。まず、社会協議福祉会にご回答をいただく前に、情報交換も含めまして、ほかのコミュニティ協議会の方々が同じようなお困りを感じておられるのか、どのようにやっておられるのかとか、その件についてご意見といいますか、情報を頂ければと思います。いかがでしょうか。

(藤田委員)

西内野コミュニティ協議会から参加している藤田と申します。よろしく申し上げます。

私のところは、15自治会・町内会があるのですけれども、毎月1回自治会部会と、コミュニティ協議会役員会を開催しております。私も立場上、副会長をやっているということで、各自治会・町内会の年間のスケジュールというものをほとんど把握しております。まつりをやったり、盆踊りやったり、子どもの地引き網をやったり、各町内からそういう情報が全部

上がってきていますので、本日もいろいろな委員の方がいるのですけれども、私はコミュニティ協議会という立場ではほとんど把握しておりますので、大体、毎年、私がまとめているのですけれども、そんなことで、私のところのコミュニティ協議会は、そのようにやっております。

(五十嵐委員長)

情報提供ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか、情報提供いただければ。

(原委員)

内野・五十嵐まちづくり協議会の原といいます。

先ほど、五十嵐地区から言ったことと大体、同じですけれども、一応、まちづくり協議会としてやる行事、それと各自治会で細かいところまでやっている、そこを使うのは自分たちは難しいので、五十嵐コミュニティ協議会の言われたように、定例会が毎月あるので、その中で出してもらって、各自治会長から。それを見て自分のほうでまとめるというか。自分の把握しているものとはそれでいいのですけれども、そうではないところも、けっこう自治会によっては細かいところまでいろいろやっているの、そういったこともすくい上げているのが実態です。

(五十嵐委員長)

どうもありがとうございました。いかがでしょうか。

(旭委員)

東青山小学校区コミュニティ協議会の旭です。よろしく願いいたします。

うちのコミュニティ協議会では、ここに載せているのはコミュニティ協議会自体でやっていることを主体として、自治会でやっている分はあまり載せていないのです。この中で、載ってものという、コミュニティ協議会でできないような防犯灯の設置みたいなことを各自治会からやってもらっているという感じで、あとは大体コミュニティ協議会主体としてやっているものを載せてあります。コミュニティ協議会主体ですので、私は事務局長をしておりますので、大体把握しているもので、私がまとめてここに記入させていただいて提出しております。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。それぞれのところでのやり方がご参考になったかと思います。ここで、社会福祉協議会のお考えもお聞きしたいと思いますので、お願いいたします。

(社会福祉協議会)

この計画のイメージのためについては、地域の活動の方向性ととらえております。ですので、一自治会、一自治会それぞれにつきましては、その地域の目的、目標に向かって、それ

ぞれの基本目標1、2、3、4があろうかと思えますけれども、この地域は、この基本目標に向かって自治会が動くのだという事業を展開をしていくという観点だとは思いますが、方向性ということですので、東青山の旭委員がおっしゃられたような形で、その地域の目標ということで動いて、細かいところにつきましては自治会の事業は目標なので、これに沿って動いてくださいということで、内部の把握でいいのかと社会福祉協議会としては考えております。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。木村委員、よろしいでしょうか。

(木村委員)

分かったような、分からないような。

(五十嵐委員長)

やはり、スケジュールが厳しいという。

(木村委員)

もう一つ聞いていいですか。社会福祉協議会だけでなく、もちろん区の方もそうだと思うのですが、これを作ったときに何回か会議があって、自分たちの地域に合ったものやろう、自分たちができるものやろうということで何回か会議を持って、自分たち独自に作った計画で、6年間の計画できたので、やれるものから手をつけていこうというような形で進められていったと思います。そのときに、うちも毎月役員会をやっていますし、理事会といって自治会長も来ていただいて、会議は2か月に1回必ずやっています。でも、大体2時間くらいかかるのですけれども、これに触れている時間というのはほぼないのです。区役所からのお話だとか、自治協議会の報告だとか、各消防署とか、いろいろな会議の報告を周知しているのが主で、これに関してやっているのは正直、皆さんの地域ではどのような活動計画に対して実施していますかという報告を頂くということはしてなかったのです。また、時間もなかったのです。1年に1回この紙を出して、皆さん結果を教えてくださいというようなやり方をしていたのです。ところが、コミュニティ協議会が各自治会にこのような計画を立てたので、このような活動を実施してくださいというのは、コミュニティ協議会の計画と活動になるのではないかと思うのですけれども、その辺、違いますか。そして、各自治会長から報告いただいて、まとめて報告するということは、コミュニティ協議会の計画であって、活動結果報告ではないかと思うのですけれども、どうなのでしょう。

(五十嵐委員長)

社会福祉協議会、いかがでしょうか。

(社会福祉協議会)

ありがとうございます。コミュニティ協議会を構成する自治会の活動について、目標に向かって自治会が活動しているということの把握をされているということは、計画（プラン）を立てた意義がすごくあるのかと考えております。その中で、個々の具体的な取組みについて、自治会から報告を頂いているということは、大事なことだと思います。このたび、自治会の実績が出る前の報告ということで、かなりタイトなスケジュールであろうかとは思いますが。回答にはなっておりませんが、地域の計画ということ、このふれあいコミュニティ協議会、地域ごとの計画自体が自治会がそれに基づいて、活動を行われているという五十嵐コミュニティ協議会の活動は本当に素晴らしいことだと思いますので、時間的に難しいかもしれませんが、よろしくお願ひしますとしか、申し上げられません。申し訳ありません。

（事務局：須貝主査）

地域福祉係の須貝です。お疲れさまです。私から話をさせていただきます。

こちらの5年間のふりかえりシートですけれども、先ほど木村委員がおっしゃったように、4月末に自治会で取りまとめるからということで期間的に厳しいということであれば、私としては、令和元年度の実績を集めないで作れないということであれば、令和元年度の実績ではなくて以前の平成30年度の実績など過去実績を参考にしたうえで、これはあくまでも1年間の振り返りではなく5年間の振り返りということですから、令和元年度がどうしても都合上、間に合わないということであれば、それまでの過去実績で書いていただくということも一つの手なのか私は考えておりますけれどもいかがでしょうか。

（木村委員）

それは分かりました。今のお話ありがとうございます。須貝さんのお話分かりました。そうすると、令和元年度の報告は、もう区はいらないということでもいいのですね。

（事務局：須貝主査）

それは次回にと。

（社会福祉協議会）

それにつきましては通常のスケジュールどおり、自治会からまた新たな報告といたしますか。来年度、今年度の分につきましては、把握をしておいていただければと思いますので。

（木村委員）

それは、私のほうで知っていればいいということなのか、それとも、例年6月末に区役所へ出しなさいというこれがないのか。この振り返りだけでいいのか、それをまずお聞きしたいです。よろしくお願ひします。

（五十嵐委員長）

今回の、この5年間の振り返りとは別に毎年のものが必要かどうかというご質問ですね。いかがでしょうか。

(社会福祉協議会)

今回の作業につきましては、次期計画のための、一つの資料ですので、前年度の事業が確定した段階で、また7月に出るということであれば差し替えという形を取らせていただきますので、今年度分のデータにつきましては、後ほどまた改めて数字の記載を、自治会ごとにとられるということであればとっていただければと思います。改めて、こちらに7月末までに提出してくださいということは申し上げません。

(木村委員)

必要なければとりません。提出するためにとっていただけですから。

(社会福祉協議会)

それが、次期の計画の数値に反映されるということであれば、今年度分についての数値は、五十嵐で今回は参考にしないで、過去5年分といいますか、それを振り返っていただくということであれば、それはそれでけっこうです。

(木村委員)

分かりました。ということは、今、再来年度計画を作るためのもので欲しいということですよ。今まで報告していたのは、何のための報告だったのですか。

(社会福祉協議会)

今まで報告していただいたものについては、単年度、単年度の目標に向かって、事業がどの程度実施されているかということそれぞれの地域で把握していただくためのものがございます。

(木村委員)

把握していただくためというのは、コミュニティ協議会でやっていればもう分かっているわけですよ。区にそれを報告したではないですか。そのいきさつが分からないのではないですか。これは区で依頼して、社会福祉協議会が、二団体一緒だとは思うのですけれども、システムが今まで、区から来て、区が4月末までまとめてくださいと。それについては6月25日までに出しなさいと。その後こういう会があって、皆さんご報告いかがでしたかという会があったでしょう。それが、いきなりぼんと前触れがなくこれが来たので、私が戸惑っているということです。来年もあるわけですよ。来年は6年間分が出るのだろう。完成のものが出るのだろうと思うのです。そういうことをするのかによって、こちらのやり方が違ってくると思うのです。ただ単に、毎年私も21の自治会長に報告を出してくださいと言って出して、そしてコミュニティ協議会独自の事業もありますから、小学校区全体の事業もある

のでそれをあわせて報告しているのですけれども、そういうことをしなくても、こちらが押さえた段階で報告してもいいのかどうか。今、聞いたら、コミュニティ協議会独自でやっていらっしゃるところもあるのです。

例えば、五十嵐だと、各地区に茶の間を 21 ある自治会ごとに開催しましょうというのは、コミュニティ協議会で一つ作ってあれば、お茶の間の開催ではなくて、各自治会で開催できるのところはできるだけしましょうというようなことで普及活動等を行っているのです。だから、この計画そのものというのは、自治会がうまくいくように作ったものだったので、その基が間違っていたのかと今、思っているのですけれども。

(社会福祉協議会)

まず、この計画でございます。今回、A、B、C、Dということで事業評価をさせていただきました地域福祉計画ですけれども、これは行政の全体の計画ということで、このような形で委員会に提出をさせていただいております。加えまして、今ほどお願いをいたしました地域福祉活動計画、これはあくまでも民間の地域の計画ということで、皆様方の地域それぞれの資料につきましては全委員に渡ることはございません。あくまでも、それぞれの地域の計画ということで、地域内で皆様方でそれぞれの地域で作っていただいた計画がどの程度進んでいるのか、目的について達成をしたのかということ把握していただくためのものがございますので、コミュニティ協議会の計画というか、地域のそれぞれの計画でございますので、それぞれの地域でコミュニティ協議会全体の計画という形で、これに沿って自治会がどういう事業をしたかということ把握していただけていたものと私は把握しておりました。

(木村委員)

私だけなので、あとでまたしっかり聞くことにします。貴重な時間をありがとうございます。

(酒井委員 代理：細野委員)

木村委員だけではないと思います。私は事務局長をやしまして、2年目がもうすぐ終わるようになるのですけれども、5年前の計画だと思いますが、この計画に基づいて各コミュニティ協議会でこれをメインに活動されていったところとそうではない、また独自の目標とかそういうねらいがあって活動されている中の一部にあるのではないかと自治会もあると思うのです。少なくとも、うちとしては前任の事務局長からこういうことがあるのだということを引き継いでいないので、5年前どういう状況でこの予定を立てられたのかということがよく分かっていないですし、5年間モニタリングをしていたかということもありません。ですから、そういう実態がいろいろあるわけだから、4月末に報告を強制するのではなくて、6月の推進委員会で各コミュニティ協議会から報告をしていただくということ

メインにさせていただいたら丸く収まるのかと思ったのですけれども、どうでしょうか。

(五十嵐委員長)

スケジュールのご提案ですが、いかがでしょうか。

(砂井委員)

小針小学校コミュニティ協議会の砂井と申します。5年間の評価ですか、4月末までということですが、うちのコミュニティ協議会も困ったと感じています。

実は、毎年の実績については一部幹部がまとめていたということで、来年度の実績につきましては、今も実は各自治会にお願いしてしまっていて、今月末までに令和元年度の実績を出してほしいということで、目標は5月に定例の総会がありますので、それまでにまとめて、総会では報告事項にさせていただこうと思っています。そんなことで、例年ですと、6月の頭くらいに出してほしいという依頼が来るわけで正直困っているのです。これはこれにして、対応といいましょうか、合わせないとだめかと思っているのですが、例年出しております前年度の実績ですが、これを出す必要があるのかどうかというあたりをはっきりしていただきたいというお願いをさせていただきたいと思います。

(五十嵐委員長)

ありがとうございます。これまでのお二方のご質問とご提案に関して、ご回答をお願いいたします。

(事務局：須貝主査)

西区健康福祉課須貝です。

では、先ほどのご質問、お二方についてです。まず、次の議題のスケジュールにも話がいくのですけれども、なぜこの締め切りが4月末だったかというところですが、スケジュール的な話がありまして、次回の令和2年度の第1回を6月中に予定しておりまして、そのご案内を5月の連休明けくらいにという頭でいたわけなのです。そうすると、案内のときに皆様に各コミュニティ協議会の資料をそこに入れて事前に見ておいていただくというような頭でいたものですから、逆算して4月末くらい締め切りになったというような事情がございます。ですが、皆様のコミュニティ協議会から、その締め切りではかなり厳しいということで、逆にこちらからご了承いただければというところですが、その資料については、当日の6月中旬の会議のときでいいということであれば、そのときまでに整っていればいいという判断にさせていただきたいと思いますので、申し訳ないですけれども、逆にこちらがお聞きするような形になってしまいましたけれども、一応、そのつもりでいたということでご了解をいただきたいと思います。

ただ、どうしても案内のときに事前に見ておきたいということであれば、やはり締め切り

を少し早めざるを得ないという事情だけのご理解を頂いたうえでということになりますので、その点をご了承いただければというところです。その辺をもんでいただければと思います。お願いします。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。では、締め切りを伸ばして事前の確認をしないか、事前確認を優先して締め切りをご提案のとおりにするかということですが、締め切りの決を取らせていただいてよろしいですか。締め切りを伸ばして事前の確認はなしとしていただきたいという方は挙手を頂けますでしょうか。締め切りを伸ばすということ。では、締め切りは伸ばさないで、このご提案のとおりに進めていただきたいという事前に確認をするというほうを優先したいという方はどのくらいいらっしゃいますか。

(木村委員)

もう一つ聞いていいですか。

このままでいって、後の報告をしなくてもいいというのか、いま一度また報告するのですか。

(五十嵐委員長)

後の報告というのは。

(木村委員)

年度末です。

(五十嵐委員長)

単年度ごとのご報告と、第3次計画策定のための5年間の報告と両方しなければいけないかというご質問ですね。その件も含めまして、確認のうえ締め切りのことを考えましょう。いかがでしょうか。

(社会福祉協議会)

単年度の報告は、今回は5年の振り返りをお願いしておりますが、来年度につきましては6年間の総括ということで、6年間の振り返りもしていただく必要がございます。単年度の報告につきましては、いるかいらないかと言われれば、それぞれの地域で目標がどこまで達成されているかということ把握していただくために必要なものでございますので、単年度の報告についてもさせていただきたいと思っております。

(五十嵐委員長)

村井委員、お願いいたします。

(村井委員)

単年度は、令和元年ですよね。5年間の中に含まれているということで、その上に立って新しいものを立てるということが今回のシステム、やり方ではないのですか。だから、私と

しては、単年度のものは、今回は省略するという事でよろしいかと思うのですけれども。

(五十嵐委員長)

事務局、いかがでしょうか。今回は、単年度のものは省略してもいいかどうかについて。

(社会福祉協議会)

ありがとうございます。それでは、令和元年度の分につきましては、このたびは必要ないといえますか、取りません。ただし、今回、これを評価していただくのは、5年間を振り返っていただいて、来年度は地域懇談会策定作業に入るための基礎資料ということで取らせていただきますので、来年度は6年間の評価についてしていただくときの実績の中に入れていただければということをお願いしたいと思っております。

(本間委員)

佐潟コミュニティの本間と申します。

私も、推進を足かけ6年間でやっており、今年で終わりなのですけれども、佐潟コミュニティ自治連絡協議会、その下に自治会があるわけです。私も自治会の中から自治連絡協議会に来て、それは佐潟コミュニティというコミュニティの一自治としてやっているのですけれども、別に理事をやっているからといっても権限があるわけでもないし、どちらかというとなんばかりの役職で負担が大きいかと思っております。やはりこういう重要な事項や案件に対しては、権限のある人がやらないとなかなかまとまりきれないです。私のほうで、その計画を一年一年出してきたのですけれども、私も各自治連絡協議会で何をやってきたか調べまして、一応、私の独断と偏見で書いて出させてもらっているのです。なかなかこれも一仕事で大変なのです。だから、理事の方もなかなか皆さん大変だと私は思っています。自分自身でも大変だと思っております。何にしても、なんばかりの役職といえますか、ほかの人がやりたがらないことを自分がやって、何となく1年間をこなしているという感じです、私の場合。でも、責任感だけは人一倍あると思っております。責任感がなければ、別に発言することもないし、委員をやるということもないです。だから、理事の皆さんは大変だと思います。私も大変だと思っておりますので。でもやはり、引き受けたからには責任を持って行動しなければならないと思っております。

(五十嵐委員長)

ありがとうございます。それでは、スケジュールの話にまた戻りますけれども、いかがいたしましょうか。

多数決取りましたが、それで事務局のほうはよろしいでしょうか。事務局からのご提案に基づいての多数決の結果、期限を延ばして、事前の確認はなしというほうに、過半数の方が手を挙げられたわけですが、それでよろしいですか。

(事務局：須貝主査)

先ほど、多数決で、後でかまわないということで、多くの方から手を挙げていただいたということですので、資料については6月の第1回のお出しするという方向で進めさせていただきたいと思います。今すぐお答えはできないので、具体的な新しい締め切りについてはまた後でさせていただきたいと思います。ただ、資料についてのコピーなどしたりする必要もございますので、当日に持ってこられてもそれは間に合いませんので、ある程度、会議より最低でも1週間くらい前という締め切りにはさせていただきたいと思いますので、そこはご了承いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(五十嵐委員長)

皆様には大変なご負担になるかと思いますが、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

ほかになければ、進めさせていただきたいと思いますが、休憩を取りますか。では、5分ほど、休憩を取りたいと思います。トイレ休憩程度でよろしいですか。それでは、22分ころに再開したいと思いますので、5分ほど、休憩を取らせていただきます。

(休 憩)

(五十嵐委員長)

では、皆様お戻りでしょうか。席に着きましたら、再開させていただきたいと思います。

先ほどは、さまざまなご意見を出していただきまして、ありがとうございました。スケジュールの件は、先ほど決まりましたように、少し延期するというようお願いしたいと思います。

次の議題に移らせていただきます。議題(3)令和2年度の推進委員会スケジュール(案)について、事務局よりご説明お願いいたします。

(事務局：須貝主査)

西区健康福祉課、須貝です。こちらについて、私から説明させていただきます。

資料3「第3次いきいき西区ささえあいプラン策定スケジュール(案)」をご覧ください。まず、令和元年度のスケジュールですが、次回3月12日(木)に第3回の推進委員会を開催させていただきます。その委員会では、次期いきいき西区ささえあいプランの基本理念、基本目標の検討や新潟市が行った地域福祉に関するアンケート結果報告を議題とさせていただきます。

続いて、令和2年度に入りまして、第1回の推進委員会を6月中旬ごろ開催させていただく予定です。ここでは、次期計画の素案審議、地域別計画の現計画の検証等を議題とさせて

いただく予定です。次に、第2回推進委員会を8月上旬に開催させていただき予定です。議題は、次期計画の素案審議と次期地域別計画の策定についてとさせていただきます。次に、8月下旬から9月下旬にかけて、地区懇談会を2回開催させていただき予定です。これについては、後ほど、社会福祉協議会よりご説明いたします。次に、第3回推進委員会を10月下旬に開催させていただき予定です。議題は、次期計画の素案審議及び地区懇談会で検討された地域別計画の報告等です。この第3回の推進委員会で素案をほぼ確定し、その素案を基に12月にパブリックコメントの募集及び市民厚生常任委員協議会で報告を行います。年が改まって2月上旬に第4回推進委員会を開催させていただき、パブリックコメントの意見の報告等を行い、次期計画の素案審議を終了し、計画の確定とさせていただきます。なお、今年度、分科会を開催させていただき、皆様から各地域の取組みについて話し合いをしていただきました。令和2年度も時期を見て開催してまいりたいと思っております。このスケジュールに記載はしておりませんが、話し合いたいテーマなど、ご意見等ございましたら、事務局までお声がけください。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。今ほどのご説明で、何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。

(木村委員)

五十嵐コミュニティ協議会の木村でございます。

今、スケジュール表を説明いただいたのですが、一つお聞かせ願いたいのですけれども、再来年度の活動計画と実施計画を作るときに、今年度、今、やっているものについては、委員のほかに各コミュニティ協議会から会長、副会長、それによって違うと思うのですが、うちの場合ですと、会長、副会長、事務局長、そして各部員の人たちが集まって計画を練った経緯があるのですけれども、この委員会の会議のほかにも、そういう会があるのでしょうか。それとも今いる自分たちだけで作るのでしょうか。その辺を教えていただければと思います。

(事務局：小林係長)

ありがとうございます。西区健康福祉課の小林です。

おっしゃるとおり、地域活動計画につきましては、この推進委員会のほかに点線で囲まれている地区懇談会というものを開催して、そこで計画を策定いただく予定です。これにつきましては、社会福祉協議会から説明していただきますので、よろしく申し上げます。

(社会福祉協議会：鍋谷事務局長補佐)

今ほど、小林係長から説明いただいたとおり、点線のところの地区懇談会2回開催と書いてありますが、8月下旬から9月下旬ごろを予定しているのですが、地区懇談会を2回開催

させていただいて、その中で話し合っ、計画を作っっていく形になります。コミュニティ協議会エリアごとの地区別計画となりますので、15 エリアごとに話し合っいただくこととなります。大きな地域ごとに、例えば、黒埼地域で1日、西地域で1日、坂井輪地域はエリア数が多いですので、何日かに分けて実施することになると思いますが、日程については、また今後、調整させていただきたいと思っますので、よろしくお願っいたします。

(五十嵐委員長)

木村委員よろしいですか。

(木村委員)

もう一ついいですか。ごめんなさい。質問ばかりして恥ずかしいのだけれども。では、各コミュニティ協議会に出向いてくれるとか、コミュニティ協議会が健康センターとかに集まっただけで、前は大きな会議な会議室の中で、それぞれコミュニティ協議会の委員たちが集まって会議をして作っったのですけれども、これはコミュニティ協議会ごとにやるということですか。

(社会福祉協議会：鍋谷事務局長補佐)

想定しているのは、コミュニティ協議会に幾つか集まっただいて、大きな会場で四つくらいのグループに分かれてやるようなことを想定しています。また、メンバーについては、コミュニティ協議会の役員の皆さんはもちろんなのですが、例えば、民生委員ですとか、コミュニティ協議会を構成している団体の組織の方、例えば高齢者、障がい者の福祉施設の方や子ども食堂や親子の居場所のボランティアの方、児童関係の方やささえあいの仕組みづくりの協議体の皆さん、そして仕組みづくりの推進員など、地域の方、いろいろな視点が入るよう進めていこうと事務局では考えております。

(旭委員)

東青山小学校区の旭です。

今、おっしゃったのは、その案内は、コミュニティ協議会が個々の子育てのところとか、高齢者の支援のところ案内をして集めて会議を開くということでしょうか。

(社会福祉協議会)

懇談会の日程につきましては、こちらのほうでブロックごとに分けて開催日を決めさせていただきたいと思っます。その開催日にそれぞれのコミュニティ協議会ごとにどのメンバーが集まって計画を立てたらいいのか、話し合っったほうがいいのかということですので、こちらはコミュニティ協議会にいついつ地域懇談会を開催いたしますので、ご参集をお願っいたしますというご案内をさせていただきます。そこから先、コミュニティ協議会でこの懇談会があるので、また出ていただきたい、それぞれの地域で声がけをしていただければと考えて

おります。

(旭委員)

そういう場合ですと、声掛けをしなければいけないと、早めに日程というか、聞かせていただかないと、差し迫ってからですとコミュニティ協議会の役員しか出席できないというような形になってしまうもので、けっこう早めの日程を聞かせていただきたいのと、あとは何か所かにブロックごとに分けてやるということでしたので、それでしたら個々近いところで開催していただきたいとお願いしたいと思います。

(五十嵐委員長)

ほかにいかがでしょうか。

(事務局：小林係長)

一点補足をさせていただきます。今ほどの内容で、実は2月6日にコミュニティ協議会の会長が集まる会議が西区役所でありました。次期計画の策定作業をするということと、この地区懇談会についても開催しますというざっくりとしたお話はさせていただいておりますことをご報告させていただきます。

(五十嵐委員長)

それでは、次の議題に移らせていただきます。議題(4)次期計画の基本理念及び基本目標についてです。事務局よりご説明をお願いいたします。

(事務局：須貝主査)

続いて、議題(4)についても、私須貝から説明させていただきます。

資料については、資料4「新潟市計画地域福祉計画の基本理念及び基本目標について」をご覧ください。次期計画の策定に当たりまして、まずはじめに西区としての基本理念及び基本目標を定めていくこととなります。新潟市の地域福祉計画は、市全体として定める新潟市地域福祉計画があり、その下に八つの区的地域福祉計画と地域福祉活動計画があります。まづもって、この新潟市全体の地域福祉計画の基本理念と基本目標が決まらないと、区の方角性が決まらないということでもあります。そこで先般、この新潟市の基本理念及び基本目標がほぼ決定いたしましたので、そちらのご説明をさせていただきます。こちらは、新潟市の基本理念及び基本目標となり、西区のものではありませんので、お間違いのないようお願いいたします。また、こちらの基本理念と基本目標も市の推進委員会で方向性は了承されましたが、今後、まだ微調整はあり得るということを申し添えさせていただきます。

では、次期計画の基本理念及び基本目標ですが、まず資料の中央にあります新たに加える視点・考え方をご覧ください。さきに生活困窮者自立支援法、成年後見制度の利用の促進に関する法律。再犯防止等の推進に関する法律がそれぞれ施行されたことに伴い、これらの視

点を考慮に入れて、基本理念及び基本目標が検討されております。それを踏まえ、資料の右側になりますが、次期計画の基本理念及び基本目標をご覧ください。まず、基本理念は「みんなで創ろうだれもがつながり支えあい自分らしくいきいきと暮らせる福祉の都市（まち）『にいがた』」です。こちらは、現計画の理念を踏襲しながら、引き続き取り組むため、さらに地域共生社会の実現を目指し、「つながり」「支えあい」やネットワークを強化する視点、お互いの個性や多様性が尊重されるという視点を強調するために加えたものであるとのことです。

続いて、基本目標ですが、一つ目が、認めあい、支えあう意識を持った地域づくり。二つ目が、つながり協働する地域づくり。三つ目が、だれもが活躍できる地域づくり。四つ目が、健康で安心・安全に暮らせる地域づくりとなっております。この市の基本理念及び基本目標を参考に、今後、西区の基本理念と基本目標を作成していくこととなります。この基本理念や基本目標は、計画の中核をなすものですが、委員の皆様からしっかりご議論いただいて、決めていきたいと考えております。先回の分科会でなるべく効率的にというご意見を頂いておりますことから、事務局のほうでさまざまなキーワードを出させていただき、それを基に委員の皆様でグループディスカッションをしていただき、なるべく効率的に基本理念や基本目標にまとめていきたいと考えております。

また、皆様のほうからも、基本理念や基本目標を事前にお考えいただき、次回の推進委員会に臨んで頂ければと思いますので、よろしくお願いいたします。

（五十嵐委員長）

ありがとうございました。それでは、今ほどのご説明について、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

（村井委員）

青山コミュニティ協議会の村井と申します。

基本目標のところアンダーラインが引いてある「気づく」と「つなぐ」となっていますけれども、私も非常に大事なことだと思っております。気づいた困りごとのある人を支援機関につなぐとなっているのですけれども、支援機関についての私たちが分かるような詳しいものの提示をお願いしたい。困りごとでもいろいろな困りごとがありますので、それをジャンルごとに分けて、こういう問題はこうするとか、つなげるようなものが一目で分かるようなものをぜひお願いしたい。要望です。

（五十嵐委員長）

これに関してはどちらでしょうか。事務局でしょうか、社会福祉協議会でしょうか。社会福祉協議会のほうがよろしいでしょうか。事務局からお願いします。

(事務局：小林係長)

ご意見いただきありがとうございます。こちらについては、今、新潟市の計画ということで、次期計画の中での文言ということになります。そして、西区のほうで、また今後、理念、それから目標というものを皆様方からご意見を頂きながら作っていく作業をいたしますけれども、そうしたときにやはり支援機関につなぐというような内容の表現を出す場合には、具体的な場所についても明記するような方向で考えさせて頂きたいと思います。ありがとうございました。

(五十嵐委員長)

ご意見ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

(砂井委員)

小針小コミュニティ協議会の砂井です。

今、基本理念、基本目標と市の計画の現時点の考え方をご説明いただいたのですが、直接関連はしていませんが、少し発言させてもらってよろしいですか。第3次の西区の計画につきましてのスタイルをまだ確認はされていないと思うのですが、現行の計画を見ますと、取組み方針ということで、1から4の基本目標にそれぞれ第1の基本目標では7項目、以下6、3、4とそれぞれの取組み方針ということが示されているのですが、私としましては、3次につきましても、取組み方針を定めたほうがいいのではないかと考えております。その取組み方針についての関連の説明につきましては、今日の議題(1)で詳細に説明を頂いたのですが、これについては今、申しあげました基本項目、基本目標に書かれておりますそれぞれの柱、具体的な事業だと私は認識しているのです。5年間の実績もまた、3次計画に反映させるためにということで、5年間の実績も出すのですが、私は、できるだけ簡潔に取組み方針を定めたほうがいいのではないかと考えていまして、ついでに具体的などという手順でやるかということなのですが、現行の今、申しあげました各基本目標に掲げております項目ですが、第3次にも掲載といえますか、載せてふさわしい項目だと思っております、ただし表現を少し変えたらどうかと思っております。

例を申し上げますと、基本目標の1に地域包括ケアシステムの構築の推進とあるでしょうか。ということで、第3次は私とはとにかく包括ケアシステムの項目は残したいと思っております、例えば、ケアシステムの担い手の発掘、すそ野を広げるといいますか、拡大。表現を変えることによって、項目が使えるのではないかと考えております。そんなことで、それぞれ現行の項目をまず皆さんでチェックしていただくと。文言は整理するという考え方。

もう一つ、考えてみましたのが、勉強不足で分かりませんので、事務局にご指導いただいで、新たな施策です。地域福祉の方向、考え方、新たに出たものをプラスすると。取組み方

針にプラスするということにしたらどうかと思っています。今日、新潟市の計画で新たに加える視点、考え方ということで、四つの〇がついておりますけれども、それを新たに現行の第2次の計画にプラスして埋めていったらどうかということが、私の案でございます。基本理念、基本目標に外れますけれども、考え方を申し述べました。よろしくをお願いします。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。一点確認させていただきたいのですが、スタイルとおっしゃったのは、何か冊子に掲載するときのフォーマットみたいな、そんなことですね。

(砂井委員)

そうです。まず、今の基本目標、それから基本目標のテーマに関する考え方といいますか、その後に取り組み方針ということで項目が載っているのですが、そういうスタイルにしたいとかどうかという議論がまだ確認されておられません、第3次の計画についても、現行のまとめ方がいいのではないかとことです。分かりましたでしょうか。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。それでは、事務局はいかがでしょうか。冊子の掲載のスタイルですとか、目標の組み込み方とか、ご意見をお願いいたします。

(事務局：小林係長)

ご意見いただきまして、ありがとうございました。次期計画のまとめ方をご意見、大変ありがたく思っております。

今、おっしゃったとおり、現計画のところにおいても、例えば、地域包括ケアシステムの構築というところは、非常に今後についても大事だから、表現は変えても残していくべきだろうというようなお話がありました。すべてまたこうした項目を再チェックしていきまして、これは重要だよ。逆にこれはもう終わっているね。今の現状に即した内容にすり合わせていくという作業をして、第3次計画のほうに項目としていきたいと思えます。また、表現につきましては、個々に見させていただきたいと思えます。そして、そこに追加するということが、事務局でこれはという事業があれば、項目として挙げるということと、新たに加える視点。新潟市の計画の中で新たに加える視点というところも考慮しながら、追加作業をしていくということで、まとめていきたいと思っております。貴重なご意見、大変ありがとうございました。

(五十嵐委員長)

ご説明ありがとうございました。ほかにいかがでしょうか。

(本間委員)

佐潟コミュニティの本間です。

新潟市計画ですが、新たに加える視点・考え方ということで、2番目の生活困窮者自立支援の視点。この生活困窮者自立支援法というのは、2015年にできましたね。今、ここにも書いてありますけれども、この困窮者に対しては、生活保護課が担当するのか、担当すると思うのですけれども、今日の新潟日報を見ましたら、今度、社会福祉協議会でもリバースモーゲージ制度、つまり不動産を担保に入れて生活資金を生み出すという、それで終活を迎えるということになっているのですけれども、この場合、やはり社会福祉協議会もそういう生活困窮者に対しての自立支援。そこに力を入れてやっているのですか。

もう一つ、聞きたいのですけれども、社会福祉協議会が昔からやっている生活福祉資金貸付事業というものですけれども、割りと相談件数に対して実施している確率が少ないのです。今回も資料を見ましたら、総段数が150件に対して貸付件数3件。2パーセントにも満たないくらいなのです。以前の資料を見ましたら、2パーセントに満たない程度なのです。それだけ貸付が厳しい。つまり条件が厳しいということになるのですが、困っていて金を借りたいと相談したいということで行くわけですから、それで窓口が狭いので相談のしようもないということになるのではないですか。その辺についてもお伺いしたいと思います。

(社会福祉協議会)

ご質問ありがとうございます。社会福祉協議会のほうでも、生活困窮者の自立支援ということをやっているのかどうかということなのですけれども、直接的には社会福祉協議会だけでやっているということはありません。その方が自立をするために、どういう支援が必要なのかということでののかかわりということで、コミュニティソーシャルワーカーを中心に活動しております。例えば、にしC o. Mi. NETでいろいろな方と接する中で出てきたケースで、一つ家電バンクというものがあるのですけれども、それは昨年度、できた制度と申しますか、実行委員会形式で社会福祉協議会もかかわって、実行委員会で家電バンクを立ち上げたのですけれども、その方が家電が一つ壊れたことによって、生活が崩れていく、ごみ屋敷化していくということを防ごうということで、不要になった10年以内の家電をご寄付いただいて、それが生活再建のきっかけになるという制度なのです。そういった形での困窮者支援、自立支援というものは社会福祉協議会でも行っております。

それから、生活福祉資金貸付制度ですけれども、相談件数はたくさんございます。ただ貸付に至ったケースは少ない。その理由といたしましては、最後の最後の最後に利用できる制度ということで、他方優先なのです。お話を聞いていく中で、福祉のお金はすぐ借りられると簡単においでになる方がいるのですけれども、よくよく聞いていくと、まだ窓口がどこでもある。そちらのほうに該当するというので、ほかの貸付の機関へつないでいくケースがほとんどでございます。ですので、相談件数よりも、貸付が少ないと。決定件数が少ないと

いう関係です。

リバースモーゲージにつきましても、銀行がやっていたらリバースモーゲージとはまた違って、65歳以上の方がご利用できるリバースモーゲージ、住宅担保の貸付も、社会福祉協議会が窓口になって行っておりますけれども、これについても西区でも何件か利用されているケースがございます。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。ほかにご質問ありますでしょうか。よろしければ、本日の議題はすべて終わりましたので、これで第2回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会を終了いたします。

最後に事務局から事務連絡をお願いいたします。

(事務局)

皆様、長時間にわたる会議、大変お疲れさまでございました。

事務局から2点ほど事務連絡をさせていただきます。1点目です。次回、第3回いきいき西区支えあいプラン推進委員会は、3月12日(木)午前10時からここ内野まちづくりセンターのホールで開催させていただきますので、ご予約をお願いいたします。

2点目、実は、3月末日で任期満了となられる委員の方が何人かいらっしゃいます。その方につきましては、コミュニティ協議会会長、事務局長を通じて、次の方の人選をお願いしたいと思っておりますので、その場合は、引継ぎをしていただきますよう、どうぞよろしくをお願いいたします。

以上で、終わらせていただきます。大変ありがとうございました。

(五十嵐委員長)

それでは、以上をもちまして、閉会とさせていただきます。また、皆様、来月お目にかかります。お疲れさまでした。